青い鳥
L'Oiseau bleu

会報第32号　2018年7月20日発行

社会福祉法人	発行人　馬塲 敬二
東京ヘレン・ケラー協会	編集人　福 山　博
Established in 1950	製　作　広報委員会

平成29年度卒業式

一色賞を受賞する津田佳代子さん

ヘレン・ケラー学院は、3月15日（木）午前10時から平成29年度卒業式・修了式・終業式を行いました。卒業生は専門課程5人と高等課程2人。これに高等課程3年生あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう科修了生4人が加わり、計11人に馬塲敬二学院長から卒業証書、修了証書が授与されました。

1年間の学業成績優秀者に贈る優等賞は12人に、努力賞は2人に授与されました。今年は同窓会長賞の該当はありませんでしたが、在学中特に優れた学業と品行を示した者に贈られる一色賞（東京ヘレン・ケラー協会創立の功労者である一色直文氏を顕彰し贈られる賞）は専門課程3年の津田佳代子さんが選ばれ、馬塲学院長から賞状と記念品が授与されました。

また、来賓として東京都福祉保健局障害者施策推進部共生社会推進担当課、埼玉県福祉部障害者福祉推進課、さいたま市保健福祉局福祉部障害支援課、東京視覚障害者生活支援センター所長、同窓会会長のほか、東日本旅客鉄道株式会社高田馬場駅長らが参列され、温かい祝辞をいただきました。

式辞に際し、馬塲学院長は「途中で投げ出すことなく最後までよく頑張りました。強い意志、情熱を感じます。卒業生の皆さんはこれから新しい舞台に立ちます。辛いことがあるかもしれませんが、既成概念にとらわれず、健康を第一に一歩一歩前進していってください」と激励しました。

卒業生を代表して高等課程の臼井倫太郎さんが「卒業まであっという間でした。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。在校生は残された時間を大切に目標に向かって頑張ってください」と答辞を述べ、たくさんの拍手に送られて会場をあとにしました。

国家試験

2月24日（土）25日（日）の両日に行われた第26回あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の結果が3月に発表され、あん摩マッサージ指圧師は7人、はり師、きゅう師は、それぞれ5人が合格した。厚生労働省が発表した合格率（あ師83％、は師57.7％、き師62.5%）は、いずれも前年を下回るなか、学院の現役合格率はあ師88％、は・き師71%と3年ぶりに前年を上回る結果となった。

3人の新入生を迎え
平成30年度入学式を挙行

4 月 6 日（金)、春らしい穏やかな青空の下、学院敷地内の八重桜が咲きほこる中で、平成 30 年度ヘレン・ケラー学院入学式および 1 学期始業式が行われました。

新入生は、高等課程 2 人専門課程 1 人の合計 3 人。入学式で誓いの言葉を述べたのは及川晃子（おいかわてるこ）さん。新たな挑戦となる学業に向けて、落ち着いた口調で「不安ではありますが、大きな目標と無限の可能性を信じて、向かい風を追い風に変えていきます」と誓いの言葉を述べました。

その後、馬場学院長は「入学おめでとう。自立のために、私達は全力で皆様方の支援を行います」と祝辞を述べました。

続いて各クラスの新担任と専任講師が紹介され、ヘレン・ケラーの歌「幸福の青い鳥」を全員で合唱して式典は終了しました。

「医療面接セミナー」を開催！

入学式・始業式終了後、11 時 30 分から、3 年生以上を対象に医療面接セミナーを開催し、学生 17 人と講師 5 人が参加しました。

講師は、元都立盲学校理療科教諭で、日本盲人社会福祉施設協議会が運営する盲人ホーム杉光園（さんこうえん）・技術指導員の菅原徹（すがわらとおる）氏にお願いしました。

テーマは「医療面接とコミュニケーション」。以前は、「問診」という形で、主訴に重点を置いて患者さんと対話することが主流でしたが、近年は、治療前に患者さんの話を聞き、病気や身体の状態を把握するだけでなく、患者さんの悩み苦しみに寄り添い、また、現在の身体状態を患者さん自身に理解していただくなど、カ

ウンセリングの要素も含めた、医師と患者とのコミュニケーションが強く求められており、それを「医療面接」と表現しています。

事前配布したレジュメをもとに、問診と医療面接の違い、コミュニケーションの取り方、基本的技能について専門用語を確認しながら、時折ジョークを折り混ぜて穏やかな口調でお話しいただきました。

これから臨床実習を開始する 3 年生をはじめ、上級生も熱心に耳を傾け 1 時間という非常に短い時間ではありながらも有意義な時間を過ごすことができました。

セミナー終了後、学院講師の先生から「今日はどうされました？　の一言がなかなか言い出せなかったことを思い出した」、「初歩的な内容でしたが、とてもよくまとまっており、非常にわかりやすかった」との声をいただき、無事終了したことに一安心しました。

学生からは、「患者さんと向き合う際の基本的部分を再認識できた」、「臨床実習は緊張するけど事前にこういう内容を聞けたので少し気持ちが楽になった」との声を聞くことができました。

昨夏、就職支援セミナーを開催した際、「技術はもちろん、人とのコミュニケーションがとても大切だ」と講師の方々が口にしていたこともあり、「日常生活でのコミュニケーションを始め臨床実習で患者さんと向き合う際の応対についてセミナー開催したい」と、今回のテーマを思い立ち、学院講師の先生方と相談しながら実現に至りました。

本当は、模擬患者など実践的な内容にしたかったのですが、また機会を見て開催したいと思っています。学生たちには、今まで培ってきた知識と技能を、これから出会う患者さんに一生懸命還元していただきたいと願っています。

『近代日本盲人史』好評発売中

サブタイトル：「業権擁護と教育・福祉の充実を訴え続けた先人達」

著者：久松寅幸（元長崎県立盲学校教頭）

発行：2018 年 7 月 1 日

本文：ヒラギノ UD 角ゴ 14P

附録：TXT ファイル CD（複写厳禁）

価格：2,808 円（本体 2,600 円）

※送料別（お問い合わせください）

発行：東京ヘレン・ケラー協会

E-mail：yougu@thka.jp

本書は視覚障害者の業権擁護と教育・福祉を中心に、その充実を訴え続けてきた先人の取り組みを、著者が『点字ジャーナル』に連載したものに加筆・修正して単行本にまとめたものである。

第 1 章は、按摩・鍼・灸業を中心として、視覚障害者の業権擁護運動と実践の特質を述べている。

整理・分析に当たっては、『点字毎日』、官立東京盲学校同窓会誌『六星の光』（点字）等、当事者自身の記録を多く引用した。

第 2 章は、盲学校や施設における職業教育の充実と新職業開拓の取り組みについて、戦前の視覚障害教育における当事者団体の動向を把握する資料としては『帝国盲教育』等を整理・分析した。

第 3 章は、福祉の充実に向けた戦前の盲人保護法制定の運動とその要求の特質と、戦後の身体障害者福祉法制定を整理・分析している。

平成29年度事業報告

【協会本部】

11 月 11 日、東京・トッパンホールにおいて、参天製薬（株）協賛、文部科学省、毎日新聞社などの後援で第 67 回ヘレン・ケラー記念音楽コンクールを開催した。入場者数は約 220 人だった。

【ヘレン・ケラー学院】

平成 29 年度当初の学生総数は 30 人だったが、4 人の退学者が出たため 29 年度末の在学者数は 26 人になった。卒業生・修了生は 11 人で、これでヘレン・ケラー学院の卒業生・修了生の総数は、延べ 1,942 人となった。

平成 30 年度の入学者は 3 人で、平成 30 年度 4 月 1 日現在の学生総数は、22 人となった。

第 26 回国家試験が平成 30 年 2 月 24・25 の両日に行われ、当学院からあん摩マッサージ指圧師に現役 8 人、既卒者 4 人が受験し、現役 7 人が合格した。はり師きゅう師とも現役 7 人、既卒者 1 人が受験し、ともに現役 5 人が合格した。

視覚障害者ガイドヘルパー養成研修を 5 回実施し 135 人が修了した。

【点字図書館】

製作図書タイトル数は点字図書が前年比 19 %減、デイジー図書 6 %増となった。貸出数では、点字図書は前年比微増、デイジー図書（雑誌を含む）は、前年とほぼ同数だった。

平成 30 年 3 月末現在の利用登録者数は 1,806 人で、前年度比 1 人減となった。

中途視覚障害者対象の点字講習は、毎週水曜日実施の一般講習を 60 回行い、延べ 205 人が参加した。ヘレン・ケラー学院生への個別指導は 79 回行い延べ 112 人が参加し、パソコン講習は、延べ 25 人が受講した。

生活相談は 60 件、移動や日常生活動作、情報機器操作などの訓練は 243 件実施した。音訳ボランティアの勉強会を 5 回開催し、延べ 68 人が参加した。医学用語の点訳・音訳講習会は点訳に 30 人、音訳に 21 人が参加した。点字触読サポート勉強会は 3 回開催し、延べ 54 人が参加した。

【点字出版所】

東京都議会議員選挙公報点字版を受託・作製し、日盲委選挙情報支援プロジェクトの一員として、衆議院議員選挙公報点字版と同音声版を作製した。

点字印刷機 GPB-3　2 号機の潤滑油パイプ修繕工事と潤滑油フィルター交換工事、早稲田別館 1F 事務室、3F 旧固型点字印刷室・編集・録音・製版室等の蛍光灯を LED 照明に交換する工事、新館屋上建屋の撤去工事を行った。

当方が主管施設として、11 月 30 日と 12 月 1 日に、国立オリンピック記念青少年総合センターで、日盲社協点字出版部会職員研修会を開催した。

【盲人用具センター】

学院の学生を対象にデイジー録音再生機や点字器など学習機材を紹介・普及した。恒例の展示会「サポートグッズフェア」を 7 月に開催した。

【海外盲人交流事業】

ネパール盲人福祉協会（NAWB）を財政的・技術的に支援し、統一英語点字（UEB）普及のためのナショナルセミナーを平成 29 年 12 月 14・15 の両日カトマンズの NAWB 本部で開催した。

NAWB の要請で、安達禮雄育英基金・正雄育英基金・順子女子育英基金の給付対象を、従来の「第 1 ～ 10 学年」から「第 1 ～ 12 学年」に変更した。

平成30年度事業計画

【協会本部】

11 月 10 日、東京・トッパンホールにおいて、参天製薬（株）協賛、文部科学省、毎日新聞社などの後援で第 68 回ヘレン・ケラー記念音楽コンクールを開催する。

【ヘレン・ケラー学院】

平成 30 年度の新入生は高等課程 2 人、専門課程 1 人の計 3 人の予定で、新学期の学生数は 23 人になる見通しである。視覚障害者ガイドヘルパー養成研修を当協会で 7 回、町田市で 1 回の計 8 回行い、計 160 人の受講者を見込む。

【点字図書館】

点字・録音図書を幅広く、より迅速に製作することに努める。中でも医学書、とくに鍼灸・あんまマッサージ指圧分野の充実を目指す。また、利用者個別の点訳・音訳希望に応じ、三療師国家資格取得を目指す学生に対しては資料製作による学習支援に努める。点訳・音訳勉強会を開催し技術向上に努める。また、デイジー図書製作の進捗を図るため、デイジー編集ボランティアの増員を目指す。点字図書は年間 800 タイトル、録音図書は 12,000 タイトルの貸出を目指す。また、収納限度を越えた状態の書庫を整備し蔵書管理を改善する。利用者の読書ニーズに応じた的確なレファレンスに努める。蔵書目録を整備し、テーマ別・著者別の目録を作成するなど利用者の便宜を図る。

中途視覚障害者への点字講習会、点字習得を希望するヘレン・ケラー学院生への点字補講を実施する。講習内容については見直しを図る。見えない・見えにくいことによる不自由さを軽減するための相談・訓練を実施する。

【点字出版所】

地方選挙の「点字公報」等の発行を機会に、国政選挙を想定した原稿整理等の現任訓練（OJT）を行う。きたるべき視覚特別支援学校小学部用文部科学省著作点字教科書「算数」製作に備え、引き続き「点字教科書『算数』研究会」を毎月実施する。その上で、算数に関する点字冊子作成を試行する。著者の意向に応じて理療科教科書の一部を改訂する。

録音技術の向上を目指して、全盲の語り部としてライブハウス等で活躍している川島昭恵氏の録音 CD 作成を試行する。

久松寅幸氏（元長崎県立盲学校教頭）に『点字ジャーナル』に寄稿していただいた二つの連載をまとめて『近代日本盲人史』のタイトルで拡大活字図書を刊行する。

固型点字印刷機を撤去した印刷室の改修を行う。早稲田別館 3 階の男女各 2 の和式個室トイレのうち、各 1 を洋式温水便座トイレに改修する。新館屋上の防水工事を実施する。老朽化しつつある日本製点字自動製版機の保守整備や新規開発の研究を行う。

【盲人用具センター】

学院・図書館を通して、在校生との関係性を維持しつつ、新入生とも積極的に関わりを持って、アフターケアを十分に行う。視覚障害者用具や機器を集めた展示会「サポートグッズフェア」を 8 月に実施する。

【海外盲人交流事業事務局】

ネパール盲人福祉協会（NAWB）が、『UEB ハンドブック』等の点字版を作成する場合は協力する。

第１号第１様式

資金収支計算書

（自）平成29年 4月 1日　（至）平成30年 3月31日

法人名：社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会　（単位：円）

勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支				
収　入				
視覚障害者情報提供施設事業収入	228,158,000	230,946,890	△ 2,788,890	
学生生徒納付金収入	43,242,000	43,247,160	△ 5,160	
その他の事業収入	8,615,000	8,569,000	46,000	
経常経費寄附金収入	13,161,000	13,414,825	△ 253,825	
受取利息配当金収入	42,000	40,796	1,204	
その他の収入	1,896,000	1,915,787	△ 19,787	
事業活動収入計(1)	295,114,000	298,134,458	△ 3,020,458	
支　出				
人件費支出	234,828,070	234,793,468	34,602	
事業費支出	28,301,000	28,346,396	△ 45,396	
事務費支出	23,856,000	23,646,682	209,318	
その他の支出	0	0	0	
事業活動支出計(2)	286,985,070	286,786,546	198,524	
事業活動資金収支差額（3=1-2）	8,128,930	11,347,912	△ 3,218,982	
施設整備等による収支				
収　入				
施設整備等補助金収入	156,000	155,928	72	
施設整備等寄附金収入	0	0	0	
固定資産売却収入	180,000	180,000	0	
その他の施設整備等による収入	0	0	0	
施設整備等収入計(4)	336,000	335,928	72	
支　出				
固定資産取得支出	2,624,000	2,623,968	32	
固定資産除却・廃棄支出	1,415,000	1,414,800	200	
その他の施設整備等による支出	0	0	0	
施設整備等支出計(5)	4,039,000	4,038,768	232	
施設整備等資金収支差額(6=4-5)	△ 3,703,000	△ 3,702,840	△ 160	
その他の活動による収支				
収　入				
積立資産取崩収入	8,493,660	8,493,660	0	
その他の活動による収入	0	0	0	
その他の活動収入計(7)	8,493,660	8,493,660	0	
支　出				
積立資産支出	5,448,070	5,447,843	227	
その他の活動による支出	0	0	0	
その他の活動支出計(8)	5,448,070	5,447,843	227	
その他の活動資金収支差額（9=7-8）	3,045,590	3,045,817	△ 227	
予備費支出(10)	0		0	
当期資金収支差額合計(11=3+6+9-10)	7,471,520	10,690,889	△ 3,219,369	

前期末支払資金残高(12)	83,036,934	83,036,934	0	
当期末支払資金残高(11+12)	90,508,454	93,727,823	△ 3,219,369	

愛の光通信（LIGHT OF LOVE） No.50　2018.7　夏号・*Summer*

海外盲人交流事業事務局が年に2回発行する『愛の光通信（LIGHT OF LOVE）』は下記からダウンロードして読むことができます。

http://www.thka.jp/kaigai/reports.html

第２号第１様式

事業活動計算書

(自)平成29年 4月 1日　(至)平成30年 3月31日

法人名：社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会　　（単位：円）

勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部			
収　益			
視覚障害者情報提供施設事業収益	230,946,890	236,766,120	△ 5,819,230
学生生徒納付金収益	43,247,160	41,096,416	2,150,744
その他の事業収益	8,569,000	6,509,000	2,060,000
経常経費寄附金収益	13,414,825	8,469,672	4,945,153
その他の収益	0	0	0
サービス活動収益計(1)	296,177,875	292,841,208	3,336,667
費　用			
人件費	228,012,198	212,316,281	15,695,917
事業費	30,119,001	31,712,356	△ 1,593,355
事務費	23,312,597	24,618,244	△ 1,305,647
減価償却費	12,756,081	12,076,014	680,067
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 4,527,852	△ 4,214,370	△ 313,482
徴収不能額	0	0	0
徴収不能引当金繰入	0	0	0
その他の費用	0	0	0
サービス活動費用計(2)	289,672,025	276,508,525	13,163,500
サービス活動増減差額(3=1-2)	6,505,850	16,332,683	△ 9,826,833
サービス活動外増減の部			
収　益			
受取利息配当金収益	40,796	35,366	5,430
その他のサービス活動外収益	1,915,787	1,796,152	119,635
サービス活動外収益計(4)	1,956,583	1,831,518	125,065
費　用			
その他のサービス活動外費用	0	0	0
サービス活動外費用計(5)	0	0	0
サービス活動外増減差額(6=4-5)	1,956,583	1,831,518	125,065
経常増減差額(7=3+6)	8,462,433	18,164,201	△ 9,701,768
特別増減の部			
収　益			
施設整備等補助金収益	155,928	2,353,600	△ 2,197,672
施設整備等寄附金収益	0	0	0
固定資産受贈額	0	0	0
固定資産売却益	179,999	0	179,999
その他の特別収益	0	0	0
特別収益計(8)	335,927	2,353,600	△ 2,017,673
費　用			
基本金組入額	0	0	0
資産評価損	0	0	0
固定資産売却損・処分損	1,414,807	30,218	1,384,589
国庫補助金等特別積立金取崩額（除却等）	△ 6	△ 4	△ 2
国庫補助金等特別積立金積立額	155,928	2,353,600	△ 2,197,672
災害損失	0	0	0
その他の特別損失	0	256,137	△ 256,137
特別費用計(9)	1,570,729	2,639,951	△ 1,069,222
特別増減差額(10=8-9)	△ 1,234,802	△ 286,351	△ 948,451
当期活動増減差額(11=7+10)	7,227,631	17,877,850	△ 10,650,219
繰越活動増減差額の部			
前期繰越活動増減差額(12)	271,029,414	276,723,564	△ 5,694,150
当期末繰越活動増減差額(13=11+12)	278,257,045	294,601,414	△ 16,344,369
基本金取崩額(14)	0	0	0
その他の積立金取崩額(15)	1,655,590	13,428,000	△ 11,772,410
その他の積立金積立額(16)	1,100,000	37,000,000	△ 35,900,000
次期繰越活動増減差額(17=13+14+15-16)	278,812,635	271,029,414	7,783,221

第3号第1様式

貸借対照表

平成30年 3月31日現在

法人名:社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会　　(単位:円)

勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
資産の部				負債の部			
流動資産	131,132,565	125,376,990	5,755,575	流動負債	31,769,186	39,331,092	△ 7,561,906
現金預金	106,586,105	94,676,481	11,909,624	短期運営資金借入金	0	0	0
有価証券	0	0	0	事業未払金	1,776,297	4,059,697	△ 2,283,400
事業未収金	7,926,737	13,454,657	△ 5,527,920	その他の未払金	1,414,800	0	1,414,800
未収金	0	4,080	△ 4,080	１年以内返済予定設備資金借入金	0	0	0
未収補助金	1,400,000	200,000	1,200,000	１年以内返済予定長期運営資金借入金	0	0	0
未収収益	0	0	0	１年以内返済予定リース債務	0	0	0
貯蔵品	1,013,338	1,013,338	0	１年以内支払予定長期未払金	0	0	0
商品・製品	9,890,685	10,578,625	△ 687,940	未払費用	3,445,867	1,606,117	1,839,750
仕掛品	0	0	0	預り金	0	0	0
原材料	3,330,662	4,362,371	△ 1,031,709	職員預り金	2,292,132	726,321	1,565,811
立替金	2,937	68,834	△ 65,897	前受金	14,997,300	20,805,124	△ 5,807,824
前払金	21,273	27,429	△ 6,156	前受収益	0	0	0
前払費用	352,589	312,086	40,503	仮受金	0	0	0
仮払金	0	0	0	賞与引当金	7,842,790	12,133,833	△ 4,291,043
その他の流動資産	608,239	679,089	△ 70,850	その他の流動負債	0	0	0
徴収不能引当金	0	0	0				
固定資産	592,053,586	605,005,593	△ 12,952,007	固定負債	52,265,573	54,755,800	△ 2,490,227
基本財産	231,010,385	235,606,180	△ 4,595,795	設備資金借入金	0	0	0
土地	99,757,476	99,757,476	0	長期運営資金借入金	0	0	0
建物	91,252,909	95,848,704	△ 4,595,795	リース債務	0	0	0
定期預金	40,000,000	40,000,000	0	退職給付引当金	52,265,573	54,755,800	△ 2,490,227
投資有価証券	0	0	0	長期未払金	0	0	0
				長期預り金	0	0	0
その他の固定資産	361,043,201	369,399,413	△ 8,356,212	その他の固定負債	0	0	0
土地	0	0	0				
建物	0	1	△ 1	負債の部合計	84,034,759	94,086,892	△ 10,052,133
構築物	297,439	311,691	△ 14,252	純資産の部			
機械及び装置	15,175,849	19,686,774	△ 4,510,925	基本金	17,849,770	17,849,770	0
車輌運搬具	0	0	0	国庫補助金等特別積立金	55,581,400	59,953,330	△ 4,371,930
器具及び備品	5,540,833	6,385,031	△ 844,198	その他の積立金	286,907,587	287,463,177	△ 555,590
建設仮勘定	0	0	0	施設整備等積立金(措置)	5,500,000	5,500,000	0
有形リース資産	0	0	0	建設積立金	168,427,388	168,427,388	0
権利	0	0	0	事業資金積立金	1,931,000	1,931,000	0
ソフトウェア	0	166,950	△ 166,950	就学支援積立金	3,000,000	1,900,000	1,100,000
無形リース資産	0	0	0	施設整備等積立金	39,808,477	41,449,477	△ 1,641,000
投資有価証券	0	0	0	人件費積立金	67,000,000	67,000,000	0
退職給付引当資産	52,265,573	54,755,800	△ 2,490,227	一色賞基金積立金	1,240,722	1,255,312	△ 14,590
措置施設繰越積立資産	0	5,500,000	△ 5,500,000	次期繰越活動増減差額	278,812,635	271,029,414	7,783,221
施設整備等積立資産（措置）	5,500,000	0	5,500,000	(うち当期活動増減差額)	7,227,631	17,877,850	△ 10,650,219
建設積立資産	168,427,388	168,427,388	0				
事業資金積立資産	1,931,000	1,931,000	0				
就学支援積立資産	3,000,000	1,900,000	1,100,000				
施設整備等積立資産	39,808,477	41,449,477	△ 1,641,000				
人件費積立資産	67,000,000	67,000,000	0				
一色賞基金積立資産	1,240,722	1,255,312	△ 14,590				
差入保証金	476,442	476,442	0				
長期前払費用	379,478	153,547	225,931				
その他の固定資産	0	0	0				
				純資産の部合計	639,151,392	636,295,691	2,855,701
資産の部合計	723,186,151	730,382,583	△ 7,196,432	負債及び純資産の部合計	723,186,151	730,382,583	△ 7,196,432

平成29年度
ご寄附者名簿

平成29年4月1日～平成30年3月31日

五十音順（個人団体の順）・敬称略

温かいご支援ありがとうございました！

【本部扱い】

賛助会員：参天製薬株式会社

一般寄附：青柳加寿子、杉田安男、長谷川航、藤岡博、藤田ひろ子、藤元節、松沢秀興、丸井健太、稲山輝機、加藤直之、参天製薬株式会社

【ヘレン・ケラー学院扱い】

賛助会員：新井定一、植田員弘、牛窪多喜男、金子宏、上林政吉、小泉利治・まり子、澤田昌憲、清水ひろみ、鈴木八重子、須藤憲一、中山真寿美、橋本三郎、福井愛子、星野博子、三浦真人、南直哉、柳田妙子、吉田厚子

一般寄附：秋本勇、阿部恵一、新井定一、石川晶夫、石川光司、石川照子、伊藤勇、植田員弘、生沼馨、大澤孝一、大島千惠子、大髙修・キミ、小栗誠夫、角田明義、加瀬峯夫、金井定春、神田敏男、菊地亮・満子、木村きよ子、木村修子、黒岩康孝、小泉利治、小谷政夫、小幡亮、作馬哲夫、佐野一貴、下田正男、平光子、高尾義彦、田口正良、田中茂、玉住博、根本博行、馬塲敬二、早川美奈子、林行俊、前川和男、松井茂・はるみ、南直哉、宮﨑照子、村上理恵、柳崎秀夫、矢作俊一、山﨑登志夫、横山勝幸、吉岡諄、若鍋よし子、渡辺武松

【点字図書館扱い】

賛助会員：青木素子、秋山由美子、東濱啓、磯崎治子、内田一夫、宇和野康弘、小澤洋平、片山恭子、菊地寛子、北岸保郎、経塚良未、斎藤紀年夫、清水奈美江、鈴木由紀、楯香津美、田中雄二、戸沼京子、畠山千代子、原田秀夫、東山寛、福島ふさ子、福田拓馬、星野博子、本間みさ子、前田律子、正木研、松浦節子、丸山進弘、溝口和子、宮本牧子、森輝明、諸岡和彦、山内経

一般寄附：青木弘、青木素子、市角誠、猪俣栄二、岩野英夫、浦田實、榎木吉彦、大石文雄、小澤眞三郎、加賀屋信一、柿沼正良、笠井実、九曜文子、駒井正美、酒井町子、坂本芳雄、佐子田信夫、塩田和夫、志村富雄、白木幸一、鈴木由紀、須藤憲一、高橋敏朗、田澤芳行、谷口旭、田村徳章、塚村タエ子、豊島豊、西田健治、西村秀夫、二瓶幸子、能戸幸恵、長谷川あけみ、畑秀美、林武男、平野邦雄、平林寿美子、福島久仁子、古川雄、正木研、松﨑仁紀、松田千冨美、宮本美明、室岡見致、望月美紀子、森明彦、森正喜、山内龍子、山口優子、山﨑洋子、油布勝美、米田日出明、はくたんストラップ製作委員会、株式会社ファンケル

【点字出版所扱い】

一般寄附：エムコマース株式会社、株式会社大京サイン大沼健二、ダイナスティゴルフ武政道子

【海外盲人交流事業事務局扱い】

一般寄附：阿佐博、安藤生、石田隆雄、磯公美子、今泉新治、植竹清孝、上野伊律子、遠藤利三、大橋東洋彦、岡本好司、貝元利江、勝山良三、加藤万利子、川田孝子、菊井維正、楠本睦子、小泉周二、小出隆家、古賀副武、小島亮、後藤晴子、小森愛子、近藤光枝、酒井久江、坂入隆、坂齊勝男、指田忠司、佐藤達夫、白井雅人、杉沢宏、杉田安男、鈴木俊勝、鈴木雅夫、鈴木洋子、染矢朝子、高橋恵子、田中徹二、田中正和、当津順子、長岡英司、中原章雄、生井良一、橋本幸信、林紘子、原田美男、樋渡敏也、富久縞博、藤元節、

本間昭雄、前山博、増野幸子、松井繁、松浦健三、松本大、御本正、宮下浩子、茂木幹央、森栄司、森山朝正、山口節子、吉田重子、渡辺直明、渡辺勇喜三、岐阜県立岐阜盲学校生徒会、一歩の会

岩野英夫、有限会社大本印刷、小林動物病院、古和釜幼稚園、園田鍼灸院、株式会社高垣商店、有限会社ヤマオー事務機

点字図書館リニューアル

6月16日（土）に、点字図書館の事務スペースの机を新しい物に入れ替え、レイアウトも一新しました。

今までは、職務ごとにそれぞれの席が衝立などで仕切られ点在していましたが、思い切ってひとつの場所に集めたことで、想像以上に空間の余裕ができ圧迫感がなくなりました。真っ白な新しいデスクが整然と並ぶのと相まって、訪れた人にも好印象です。仕切りが無くなったことで職員同士の業務連携、コミュニケーションも円滑になったように感じられます。

心配なのは、点字の読み合わせ校正や電話応対、CDの検聴作業などが隣り合わせとなる音の問題です。この先、冬の暖房効果も思いやられ、しばらくは様子を見守るしかありません。

写真右（入り口から3mほど進んだ右手）にある衝立は、事務スペースとトイレ・給湯室を区切るのと、奥の多目的室への誘導を兼ねて設置しました。そもそも2015年の多目的室開設に続く一連の計画だったものが、今年になってようやく実現できたのです。

助成事業報告

下記の通りご助成を受けて、完了いたしました。ご支援、誠に有難うございました。

一、公益信託障害者愛の福祉基金
一、事業名　「プレクストークポータブルレコーダーPTR3」「プレクストークPTN3」の購入
一、総事業費　218,000円
一、助成額　200,000円
一、完了日　平成30年2月1日

一、公益信託東京日本橋ライオンズクラブ
　　立川福祉基金
一、事業名　デジタル録音図書製作拡充事業
一、総事業費　261,314 円
一、助成額　180,000 円
一、完了年月日　平成 29 年 7 月 5 日

一、公益信託久保記念点字図書援助基金
一、事業名　点字図書製作のための点字用紙、
　　点字編集ソフト、点訳用パソコンの購入
一、助成額　340,000 円
一、完了年月日　平成 30 年 3 月 26 日

川島昭恵語りCD好評発売中！

東京ヘレン・ケラー協会は全盲の語り部川島昭恵さんの CD『新美南吉＆宮澤賢治』（66 分 57 秒 MONO）を 7 月にリリースした。送料別で定価 2,600 円（税込 2,808 円）。

収録内容は、①新美南吉「手袋を買いに」：ある雪の日、子狐は人間の町に手袋を買いに出かけていきます。そこで出会ったものは…。

②新美南吉「狐」：夜新しい下駄をおろすと狐につかれる。それを聞いた少年は、寝床でお母さんにたずねます。

③宮澤賢治「虔十公園林（けんじゅう）」：まわりからばかにされていた少年が植えた杉林。20 年後、杉林はどうなったでしょうか。

東京ヘレン・ケラー協会人事

6 月 30 日付で馬塲敬二理事長の点字図書館長兼務を解き、7 月 1 日付で川西幸治点字図書館次長を同館長に命ずることを、5 月 29 日に開催された理事会が承認した。

山内厚子録音課長補佐が、7 月 1 日付で製版課長補佐に任命された。

丸山由紀子が 6 月 1 日付で点字出版所製版課に配属された。

髙橋真奈美が 7 月 1 日付で点字図書館（司書）に配属された。

新館屋上建屋撤去工事報告

点字出版所の新館屋上建屋は、（財）中央競馬社会福祉財団の助成金を受けて、放送大学受信録音装置とそのダビング装置を設置するために、昭和59年12月に建てられました。

放送大学は現在でこそ日本全国どこでも受信できますが、昭和60年の開始から平成9年までは全国放送ではありませんでした。そこで放送大学で学びたいが、受信できない地域に住む視覚障害者に情報提供するためのエアーチェック・ダビング機器を設置したのがこの建屋でした。当時はスチール棚に受信機とビデオレコーダーがずらっと並んで壮観でしたが、開始から4・5年たつと優秀で熱心なユーザーは放送大学を卒業して行くので、機器の劣化と共に同事業は終焉を迎えました。

そのような事情を知る人も少なくなり、ここ最近はほとんど使われていない男子更衣室が左半分、もう右半分は図書館のスタジオが占めていました。

2月26日（月）午前9時から開始された撤去工事で最初に行なったのは、電気配線の撤去でした。電気配線は新館地下倉庫にあるキュービクル式高圧受電設備横の分電盤から直接伸びてきて建屋の中に入っており、メーター、ブレーカーを通り、各照明等に配線されていました。

次に電話回線の撤去を行ったのだが、ここで誤算が生じました。建屋の電話は休止状態となっていたが、実はそこからまた2口の回線（17番の経理と61番の1F印刷室）が増設されていたのです。それを知らず切断したので、1F事務所の三つに分配されている回路のヒューズが飛び、電話が使えるところと使えないところが生じました。

2月27日（火）からは撤去のための解体作業が始まり、28日（水）と3月1日（木）にはほぼ解体が終わりました。その途中で、撤去業者から「屋上の防水状態が劣悪で所々剥がれており、早急に防水の張替え工事を行った方がよい」という助言があり、急ぎ見積をとることとなりました。

その後は3月2日（金）まで順調に推移し、3日（土）午前9時からクレーンによる積み下ろし作業が始まり、午前中で半分以上が下ろされ、早いペースで進みました。山積みされた4トントラックが合計2往復し、午後4時半には後片付けと清掃に入り、最後にブルーシートが屋上に張られ完了しました。

骨組みとまとめられた廃棄物

完全に撤去されブルーシートで応急処置

リソグラフSF935講習会

5 月 11 日（金）午後 2 ～ 3 時、毎日新聞早稲田別館 3F 点字出版所印刷室において、高速デジタル製版・全自動孔版印刷機リソグラフ SF935（税込特価 99 万 9,000 円）の使い方講習会が開催されました。

講師は理想科学工業（株）首都圏第二営業部（理想新宿支店）の当協会担当者で、受講者は印刷課と録音課の関係者 7 人でした。

リソグラフは、少部数の地方自治体点字広報の表紙や封筒等を印刷するために今や欠かせないもので、平成 20 年（2008）3 月 4 日に、清水基金の助成を受けて 112 万 8,750 円で導入したが、昨年 9 月末に部品供給が停止されたので、購入から 10 年たつことから後継機種として導入したのが、このリソグラフ SF935 です。

理想新宿支店は、当協会から徒歩 10 分の至近距離にあるので、不具合やトラブルがあれば担当者がすぐに駆けつけてくれるということでした。

阿佐先生の思い出を語る会

筑波大学附属盲学校等で長年教鞭をとってこられ 1984 年 5 月 2 日～ 2000 年 6 月 30 日まで 16 年間、当協会にて、職員への点字指導・校正、『ライト＆ライフ』、『点字ジャーナル』編集長を歴任された阿佐博先生が、本年 4 月 1 日に間質性肺炎のため、95 歳の生涯を終えられました。

葬儀はご本人の遺言により、ご家族のみで執り行われましたが、先生は第 1 回本間一夫文化賞の受賞者であることから 5 月 26 日の午後、日本点字図書館にて、「阿佐先生の思い出を語る会」が開催され、当協会関係者も多数参列しました。

日本点字図書館田中徹二理事長と、阿佐先生のご子息・光也氏からの挨拶に続いて、20 人の方たちがそれぞれ先生の思い出を語りました。

協会関係では、ヘレン・ケラー学院の木村愛子先生が、恩師としてまた点字製版・印刷に長けた先輩教師としての阿佐先生の知られざる一面を話されました。

学院木村愛子先生

福山博点字出版所長は、来日したネパール盲人福祉協会のホーム･ナット･アルヤール氏と英語点字について先生が英語で激しい議論をされたという話を紹介されました。阿佐先生の前に『点字ジャーナル』編集長だった高橋秀治氏や編集デスクだった山添和夫氏もそれぞれ阿佐先生の思い出を語られました。

話の合間に歌手の塩谷靖子さんが歌を捧げ、最後に日点の長岡英司館長が終わりの挨拶をして、3 時間にわたる語る会は終了しました。

今年のHK音コンは
11月10日（土）

11 月 10 日（土）9 時開場、10 時審査開始としてトッパンホール（飯田橋駅下車、徒歩 13 分）において「ヘレン・ケラー記念音楽コンクール」を開催します。特別演奏として戸澤采紀（とざわさき）さん（ヴァイオリン）にご出演いただきます。

当日は入場無料です。皆様のご来場をお待ちいたします。

編集後記

気象庁は 6 月 29 日、関東甲信地方が梅雨明けしたとみられると発表しました。6 月の梅雨明けは記録がある 1951 年以降でもっとも早く、梅雨の短さとしては 1978 年と並ぶタイ記録だそうです。

サッカーの日本代表は 7 月 3 日、ロシア・ワールドカップ決勝トーナメント 1 回戦でベルギーに敗れ、我々の寝不足の長い夜は終わりました。

しかし、これからが夏本番で、猛暑が続く可能性が高いと指摘されています。冷房を上手に活用して、水分と塩分を小まめに補給して、熱中症対策にも留意しましょう。（福山博）

広報委員会

委員長：福山博（ふくやまひろし）（点字出版所長）
委員：大久保美智子（おおくぼみちこ）（ヘレン・ケラー学院）
委員：和泉枝里（わいずみえり）（点字図書館）
委員：戸塚辰永（とつかたつなが）（点字出版所編集課）
委員：佐久間朋（さくまとも）（点字出版所製版課）
委員：森本環（もりもとたまき）（点字出版所録音課）

『青い鳥』Web 版
http://www.thka.jp/about/information.html

http://www.thka.jp

社会福祉法人東京ヘレン・ケラー協会
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 3-14-20

本部、ヘレン・ケラー学院
TEL: 03 （3200） 0525
FAX: 03 （3200） 0608

点字図書館
TEL: 03 （3200） 0987
FAX: 03 （3200） 0982

点字出版所、盲人用具センター
海外盲人交流事業事務局
TEL: 03 （3200） 1310
FAX: 03 （3200） 2582